

今月のメッセージ（2012年11月）

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

帰りたくなる川

富山に来て驚いたことの一つに、スーパーの魚売り場に季節感が満ちていることがあります。春はホタルイカにバイ貝。夏はシロエビにアユ。秋はカマスにノドグロ。冬はブリにベニズワイガニ。立山山系から流れ出る川と、「天然の生簀」といわれる富山湾の恩恵を受けて、富山の家庭の食卓は豊かです。一世帯当たりのブリへの消費額は富山県が全国第1位です。

こんな調査結果があります。

他県との転出入動向を年代別にみますと、富山県の場合、15歳～24歳では他県への転出超ですが、25歳～29歳ではほぼトントンとなり、30歳以降では当県への転入超となります。北陸の他県（石川県、福井県）と比較しても、30歳以降の中堅世代が転入超となっているのは富山県の特徴です¹。

地元以外の大学への進学率が全国第10位であることも考えますと²、富山県では、「若いうちは県外に出て視野を広げ、家庭を持つ年代になったら地元に戻って生活を送る」というパターンが、一つの傾向としてあるように思えます。

製造業が盛んで中堅の方が活躍できる場を多く提供できることや、子育て支援策が充実していることなどが、中堅世代が富山県に帰ってくる背景にあるように思うのですが、底流には、自然、物価、住環境などの「住みやすさ」があります（ちなみに、富山県の人口移動率³は全国第43位の低さです）。

当地で働く方にお話を聞きました。「東京の大学に勉強に出たが、卒業後は富山に帰ることしか考えなかった。富山には就職口がきちんとあるし、生活し易さを考えても故郷に帰りたかった」。

生まれた川から海に出て成長し、また川に帰ってくるアユのように、地元に戻ってくる方々が富山にはいます。

富山には「帰りたくなる川」があるのでしょう。

以 上

¹ 北陸経済研究所作成レポート(2012年3月号)などによります。

² (株)旺文社教育情報センター作成レポート(2012年9月)によります。

³ 国勢調査の時点で5年前の居住地から移動した人の割合。